

## 技術・家庭科（家庭分野）

橋本 正恵

研究協力者 綿引 伴子(金沢大学)

### 1. ESDの取り組みにあたって

本校では、平成26年4月よりESDに関する国立教育政策研究所の研究指定を受け、研究課題を「持続可能な社会の形成者として必要な資質や能力の育成～教科間のつながりを目指したカリキュラム開発を通して～」と定めて、各教科等の連携を中心としたESDの在り方を模索し、研究を行っている。各教科等の学習が持続可能な社会の形成のために生きて働く力となるよう、教材や題材のつながりを意識した学習活動の工夫を行っている。技術・家庭科の各学習内容は、生徒の生活そのものと深く関連しているものであり、各教科等で学習した内容が現在や将来の生活とどのように関わって行くかを示す手段となる。そのような教科の特性を生かして、技術・家庭科の学習では常に個々の生徒の生活の中にある課題や疑問を見取り、その解決に向けて思考をすることをねらった題材計画を工夫していくことを重視している。

また、技術・家庭科家庭分野は、「A家族・家庭と子どもの成長」「B食生活と自立」「C衣生活・住生活と自立」「D身近な消費生活と環境」の4つの内容から構成されている。そして「D身近な消費生活と環境」の学習に関しては、取り扱い方について学習指導要領解説に「適切な題材を設定し、『A家族・家庭と子どもの成長』、『B食生活と自立』又は『C衣生活・住生活と自立』の学習と相互に関連を図り、総合的に展開できるよう配慮する。」とされており、単独で消費や環境について扱うのではなく、他の内容の学習とともに題材を構成し、同時に学習するとされている。「D消費生活と環境」は、学習において習得された知識や技能を生活の中でどのように活用されるのかを結びつける鍵となる学習となる。そのため大きな目で捉えれば、技術・家庭科の学習では、どの内容を扱うときにも、環境や自分たちが置かれている社会の状況と切り離すことはできないことから、常にESDの視点を意識して題材を工夫しなければならないと考えている。

技術・家庭科家庭分野の学習の多くの内容において、ESDとの関連が重要であり、社会の形成者としての資質や能力を育成することが最終的な目標となる。具体的なESDとの関連の持ち方の例について、以下に示す。

#### 持続可能な社会づくりの構成概念と家庭分野の学習とのつながりの具体例

- I 多様性…世界にはいろいろな生活スタイルがあることを理解する。
- II 相互性…自分たちの生活は、世界中の国々と関連しているということを理解する。
- III 有限性…生活に必要なエネルギー・水・食料などは有限であることを考えて生活工夫する。
- IV 公平性…エネルギーなどの資源を利用するときは、世界のすべての人が公平であることを理解する。
- V 連携性…家族や地域の生活は、いろいろな人がそれぞれの仕事を担って成り立っていることを理解する。
- VI 責任性…家族の生活をよりよくするために、自分の仕事に責任をもって実践をすること。

## 2. 能力・態度の育成にあたって

### (1) 中心的に扱う能力・態度について

技術・家庭科の学習とESDについて、学習指導要領解説の中で、以下のように具体的にESDと関連が示されている。「社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方や環境等に配慮した生活の仕方に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、持続可能な社会における生活の営みへの足掛かりとなる能力と態度を育てることをねらいとしている。」とあり、個人としてよりよい生活を営むことと同時に、社会の一員として社会に参加し、よりよい社会を形成していくことが教科の目標であるとしている。そのため技術・家庭科家庭分野の学習においては、扱うすべての内容でESDの視点に立った学習を構築することを目指し、学習の中で得た知識や技術が個々の生徒の生活の中でいきで働く力となるような題材の工夫が求められる。そのような学習の中では、ESDが求めるすべての概念・能力が関連してくることはもちろんであるが、その中でも特に「①批判的に考える力（代替案の思考力） ②未来像を予測して計画を立てる力 ⑦進んで参加する態度」の育成に重点をおいた学習指導を考えた。

### 【授業での能力・態度の例について（実践事例より）】

- ①批判的に考える力(代替案の思考力)：食品群別摂取量の目安に基づいて作成した1日分の献立について、別の観点（日本のよさを取り入れる）からよりよい献立になるよう工夫をする能力。
- ②未来像を予測して計画を立てる力：わたしたちの衣生活について、現状の問題点を把握し、よりよい未来に向けて、個人ができることや社会全体で取り組みたいことを考え、実践しようとする能力。
- ⑦進んで参加する態度：持続可能な社会をつくっていくために、普段の衣生活について自分たちができることを考え実践できる能力。

### (2) 思考力・判断力・表現力との関連について

ESD研究以前本校では「思考力の育成」に焦点をあて、「思考の手立て」「思考の型」などについて検討を重ねてきた。

技術・家庭科における「思考力」は獲得した知識・技能を生活の中で働かせる力であり、「様々な制約条件の下で最適解を導き出す能力」と考えている。教科の学習で身に付けた知識や技術が実際の生活の中で活用されるためには、現実の制約条件を考慮しながらその場に応じた最適解を導き出し、実践へつなげられることが必要である。技術・家庭科で育成する能力の中では主に「生活を工夫し創造得する能力」がこの「思考力」と関連が深い。これまでの研究では、技術・家庭科の学習のなかで習得した知識や技能を生活の中で活用して実践できるようになることを重要であると考えてきた。ESDの視点に立った学習指導においても、これまでの「思考力」の育成に関する指導を踏まえながら、社会の一員としてさらに現在から将来の社会の形成にまでつなげられる能力の育成をねらいたいと考えた。

### 3. 学習内容とつながり

技術・家庭分野の学習は、3年間を通して履修計画を作成することができることが、他教科と大きく違うことである。よって、他教科の学習と連携をはかる時、他教科の学習の時期を考慮して計画を組み直すことが可能である。今後、他教科の3年間の学習計画を参考に、よりつながりの深い年間計画を作成したいと考えている。

#### 国際理解の分野におけるつながり (ユニット15)

「B食生活と自立」の献立作成の学習において、最初のステップとして、食品群別摂取量の目安に基づいて、一日分の献立例を考えた。この時点で、各生徒は栄養バランスの面では適切な献立を作成することができた。その後、次のステップとして考えた献立例の点検・評価をした。1ステップ目で完成した献立を違う観点から評価をした。社会の地理分野の学習で、寒い地方（ロシアやアラスカ）に住む人々の生活について学習したことを受けて、日本で暮らすわたしたちの生活（特に食生活）の特色について考え、日本のよさを取り入れて、献立をよりよくする工夫をした。これまでの献立作成の学習では、栄養バランスのみに関わりがちだった。今回、社会の授業とつながることで、いろいろな観点から献立を工夫することができるということが、より深く理解できた。また、社会・家庭の取り組みの後、英語の授業でも国際的な食文化について学習する機会があり、生徒はより深く自分や世界の人々の食文化について興味を持つことができた。

#### 環境の分野におけるつながり (ユニット6)

「C衣・住生活と自立」の衣服の成り立ちを扱う学習では、昨年度より2年生で題材「100人の村一衣生活編一をつくろう」に取り組んでいる。生徒が自分自身の衣生活をふり返り、その中から課題を発見し、解決策を考える学習をおこなった。同じ時期に、英語の授業では、環境問題や資源の有限性についてのセヴァン＝スズキのスピーチを教材として学習をすすめており、両方の授業がよい形でつながることができた。セヴァン＝スズキをまねて、生活を変えるために「自分自身が実践すること」と「社会に働きかけていきたいこと」を考えた。

### 4. 成果と課題

今年度は学校全体としてESDカリキュラムマップの完成を目指した。そのため、技術・家庭科ではより多くの教科等と学習内容のつながりをはかりたいと考え、各ユニットとの関連を考えた。その結果、様々なユニットとの関連が可能であると考えられ、ESDの視点から教科の学習内容を捉えなおすことができた。

また技術・家庭科の学習内容は、そもそもその多くがESDと関連している。そのためカリキュラムマップの作成の時点ではより多くの教科等との学習内容と関連を図って、授業実践を行いたいと考えた。ただし、実際に3年間の年間計画を見通した時には、ESDの内容を取り入れた授業が散在しているかのようになり、教科としてのよりよい題材の配列と離れてしまうことも起こってしまった。教科としての目標を達成することがまず第一に大切であるから、欲張らずに特に実践の意義が大きい内容に絞り込み、よりよい題材の設定が重要であると感じている。

来年度以降は、3年間の授業計画をさらに改善しより精選した学習を構築したい。

1 題材名 世界がもし100人の村だったら—衣生活編—

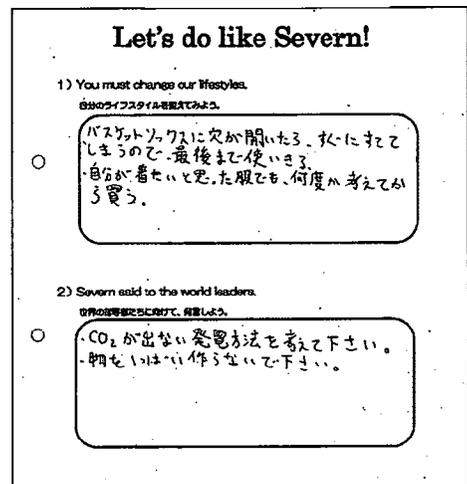
2 ねらい

- ・自分の衣生活をよりよくすることに関心をもち、調査などに主体的に取り組む。 【関心・意欲・態度】
- ・自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して工夫したりする。 【工夫・創造】
- ・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解する。 【知識・理解】

3 学習活動

- (1) **グループ活動前**時に考えた「解決したい課題」（捨てる量が多い・農薬の被害・発展途上国と先進国との格差など）を確認し、各班で課題の原因を整理する。→発表・共有する
  - (2) **グループ活動**「解決したい課題」に関する「解決策」を考える。→発表・共有する
  - (3) **個人活動**英語の授業で学習したセヴァン=スズキのスピーチの言葉を提示して、課題を解決するために自分たちができることを考え発表する。  
→①You must change our lifestyles.
- 個人活動**世界のリーダーに対する要望を考え発表する。  
→②Severn said to the world leaders.

ワークシート例



4 ESDとの関連

(1) 構成概念

- 「相互性」：自分の衣生活・消費生活が世界中の人や国と関わっていること。
- 「責任性」：よりよい生活をおくるために、一人一人が社会の一員として自ら進んで社会に参加すること。

(2) 能力・態度

- 能力②未来像を予測して計画を立てる力
- 能力⑦進んで参加する態度

【教科の目標（評価規準）】

環境に配慮した消費生活について考えたり、実践に向けて工夫したりしている。 【工夫・創造】

(3) 教材の「つながり」

- ①ESD関連分野 リサイクル
- ②教科 英語
- ③題材 If You Wish to See a Change (2年)

## 1 題材名 食生活と自立 ―献立の工夫―

## 2 ねらい

- ・日本の食生活の特色に気づくことができる。 【関心・意欲・態度】
- ・目的に沿って献立がよりよくなるように工夫することができる。 【工夫・創造】

## 3 学習活動 よりよい献立のための工夫を考えよう

- (1) ステップ1：栄養バランスの視点からよりよい献立を考える
- (2) ステップ2：日本の食生活の特色を取り入れた視点からよりよい献立を考える。

問題解決場面 目標「日本の食生活の特色を取り入れて、献立を工夫しよう」

- ①社会科「寒暖の差が激しい土地にくらす人々」で学んだ、世界の人々の食生活の特徴に照らし合わせて、日本の食生活の特徴について考える。季節の素材 米 魚と肉 など
- ②日本の食生活の特徴を取り入れた献立について考える。



## 4 ESDとの関連

## (1) 構成概念

I 多様性…世界の人々の食生活には、さまざまな特色やよさがあること。

## (2) 能力・態度

- ①「批判的に考える力（代替案の思考力）」

## 【教科の目標（評価規準）】

中学生の食生活と栄養ついて課題を見付け、その解決を目指して工夫している。

【工夫・創造】

## (3) 教材の「つながり」

- ①ESD関連分野 国際理解
- ②教科 英語科，社会
- ③題材 「国際フードフェスティバル」（英語科 1年）  
「寒暖の差が激しい土地にくらす人々」（社会 1年）